

第2次男女共同参画プランづくりを進めます

男女共同参画に関する意識調査の結果報告

■男女共同参画社会の実現が求められています

近年、少子高齢化、経済の成熟化、急速な国際化や情報化の進展と私たちの社会は大きな転換期にあります。こうした社会・経済状況の変化に対応するため、女性と男性が互いの人権を尊重し、性別にとらわれず個性と能力を発揮し、利益と責任を分かち合える「男女共同参画社会」の実現が求められています。

■まだまだ性別による固定的な役割分担が残っています

現実には、「男性は仕事、女性は家庭」というような性別によって固定された役割分担や男女を差別する考え方がまだまだみられます。このような昔からの社会通念や考え方が、子育てや介護など家庭における女性の負担を大きくしています。一方で仕事中心の生活を余儀なくされている男性もまた大きな負担を感じており、このような性別によって生き方や行動を決めてしまうような社会のあり方は、女性にも男性にも家庭生活と社会参加の両立を困難にしています。

■「男女共同参画社会」の実現を推進していきます

現在、市では「男女共同参画社会」の実現に向けて、さまざまな取り組みを行っています。平成12年に策定しました「安城市男女共同参画プラン」は平成17年度で計画年度を終了するため、この度、社会的な変化や生活価値観の多様化を踏まえて第2次安城市男女共同参画プランを策定することとなりました。

計画の見直しに役立てる資料とするため、市民の皆さんの男女共同参画についての考え方や、これからの「男女共同参画社会」のあり方についてアンケート調査を行いました。その結果がまとまりましたので、概要をご紹介します。

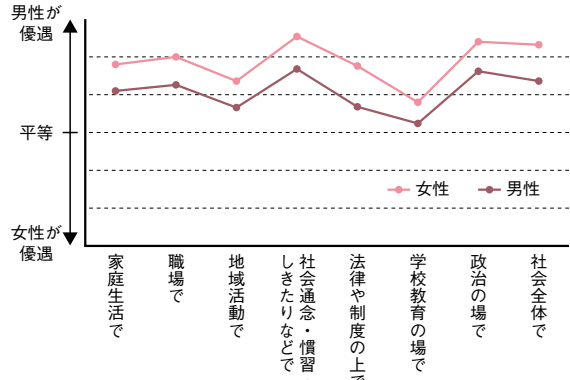
調査の概要

■調査対象 安城市に在住の20歳以上の男女2000人（男1000人、女1000人。20～60歳代の各年代から男女各200人を抽出しました）

■調査方法 行政連絡員による配布、郵送回収

■調査実施期間 平成16年6・7月

■有効回収数（回収率） 1015通（50・8％）



【さまざまな生活の場における男女平等意識】

さまざまな生活の場における男女平等意識

男女ともに男性の方が優遇されているという意識が高く、すべての分野において、女性の方が不平等感を強く感じています。また、「政治の場」や「社会通念・慣習・しきたり」などで、においては男女ともほかの項目に比べて高くなっています。

一方、「学校教育の場」においては、男女ともに男性が優遇されているという意識が低く、比較的平等であるという意識が高くなっています。

男女が平等な立場で協力するために必要なこと

男女ともに、44％の人が「さまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が必要と答えています。

次いで、「男性の理解・協力を得ること」が必要と答えた人が男女ともに多くなっていますが、女性は42％に対し、男性は26％と男女の意識の差が顕著に現れています。

女性の人権が尊重されていないこと

女性では、「職場におけるお茶くみ、補助的業務など」と答えた人と、「家庭内での夫から妻へのことば使いや

態度など」と答えた人がともに29％と多くなっています。

一方、男性では、「職場におけるお茶くみ、補助的業務など」と答えた人が34％と多くなっています。

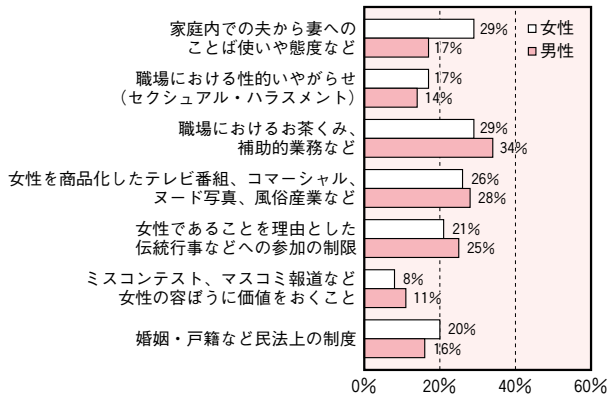
また、「家庭内での夫から妻へのことば使いや態度など」と答えた人は、女性の29％に対して男性は17％と男女の意識の差が大きくなっています。



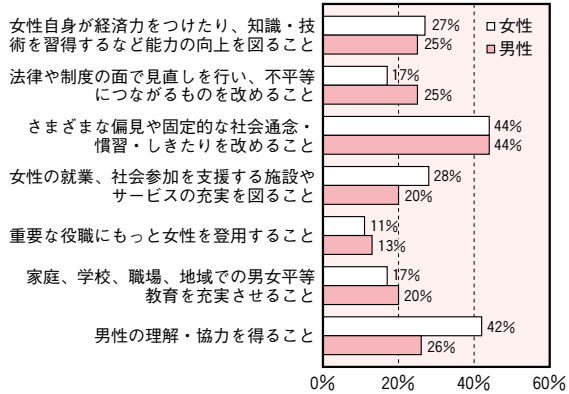
ドメスティック・バイオレンスの経験

夫（パートナー）や恋人から女性に対する暴力であるドメスティック・バイオレンスを受けたことがあるかどうかを女性に質問しました。

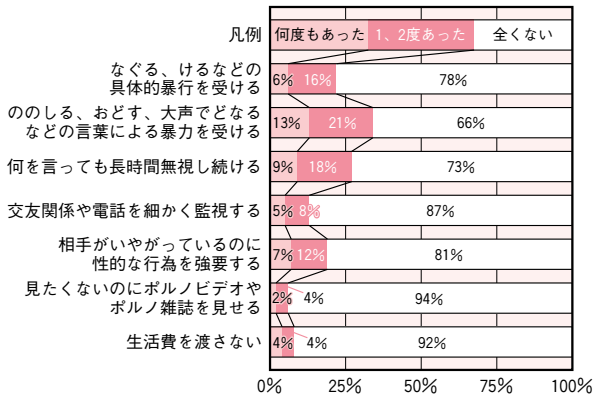
身体的な暴力では、「殴る、けるなどの暴力を受けた」ことがあったと答えた人が22％となっています。精神的な暴力では、「のしる、おどす、どなるなどの言葉による暴力を受けた」が34％、「長時間無視され続けたことがあった」が27％となっています。



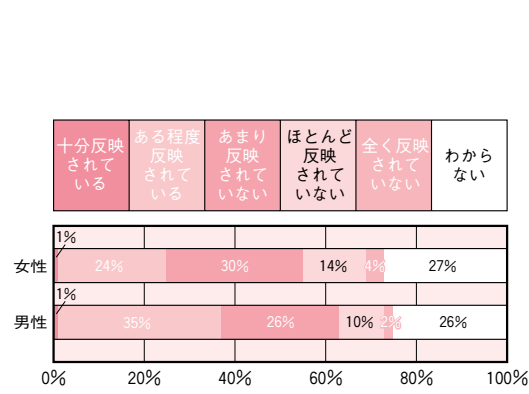
【女性の人権が尊重されていないこと】



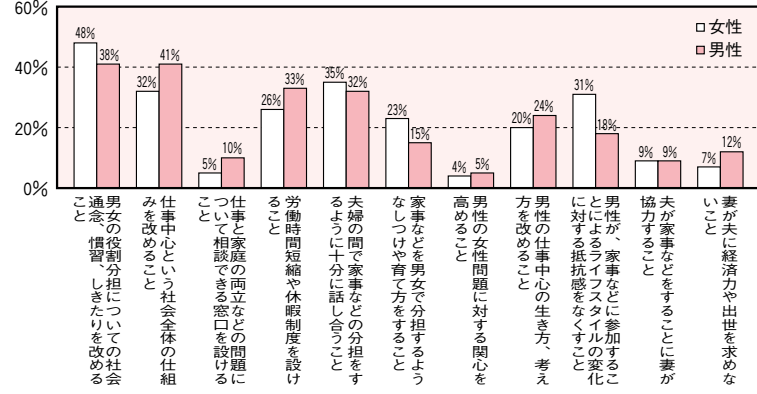
【男女が平等な立場で協力するために必要なこと】



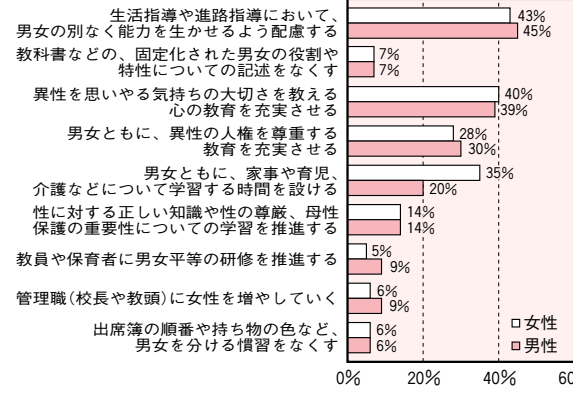
【ドメスティック・バイオレンスの経験】



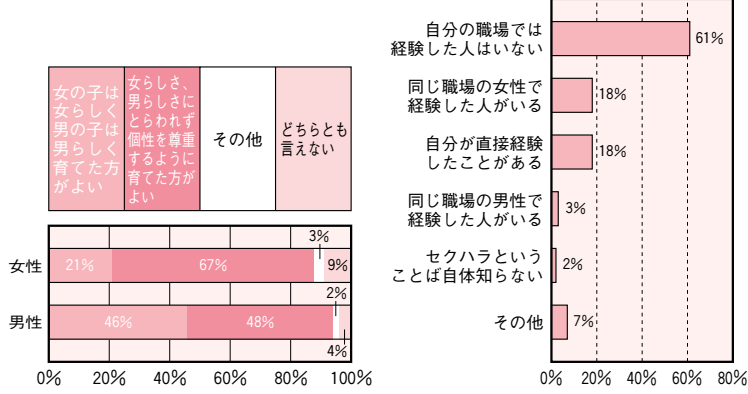
【施策への女性の意見、考え方の反映状況の認識】



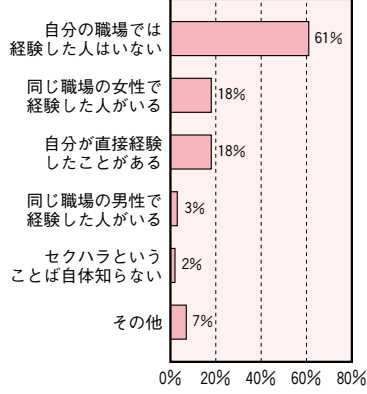
【家事・子育て・教育・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと】



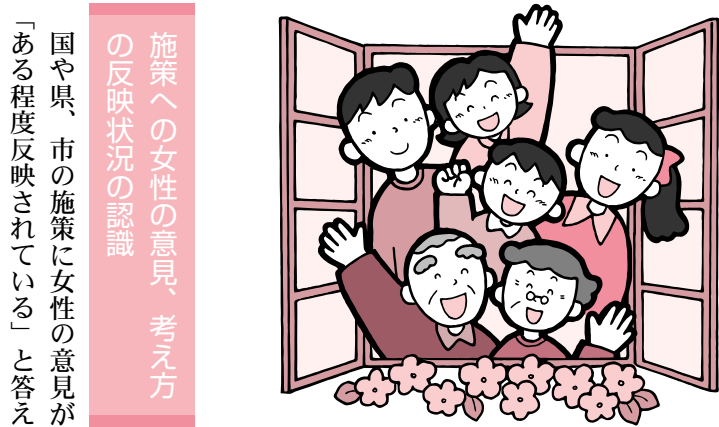
【学校教育で力を入れるべきこと】



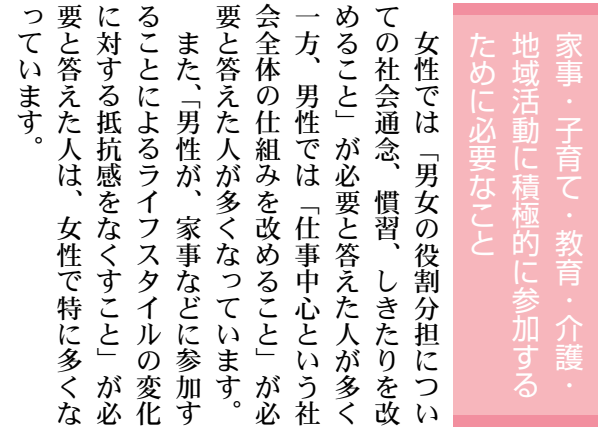
【子どもの育て方についての考え方】



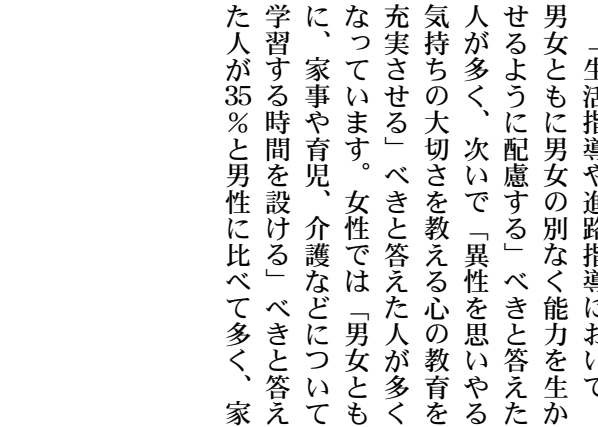
【セクシュアル・ハラスメントの経験】



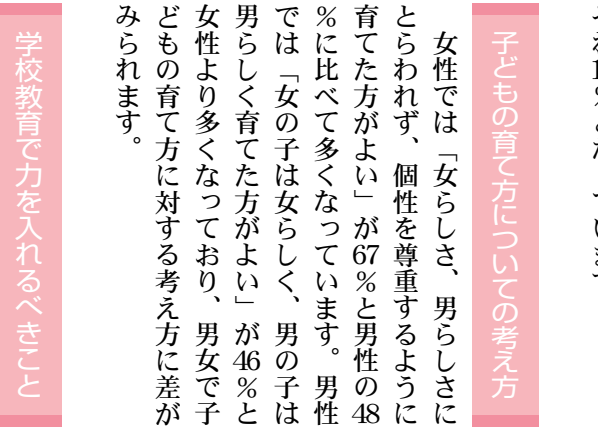
施策への女性の意見、考え方の反映状況の認識



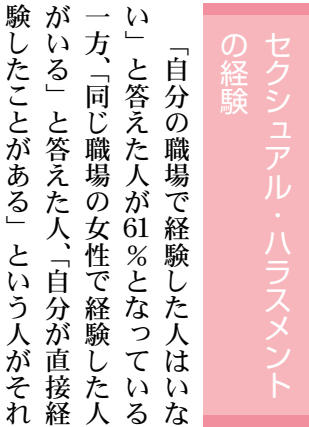
家事・子育て・教育・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと



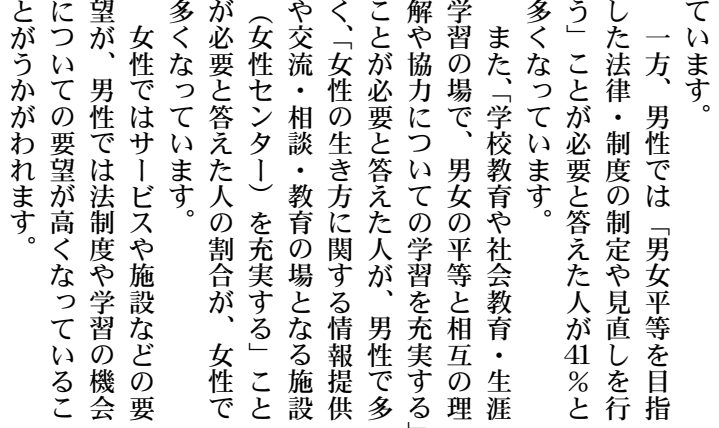
学校教育で力を入れるべきこと



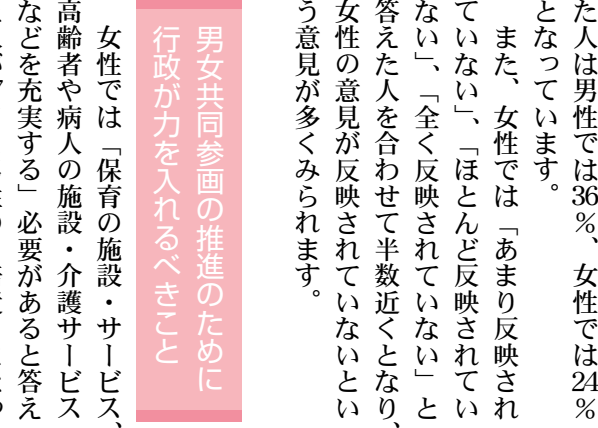
子どもの育て方についての考え方



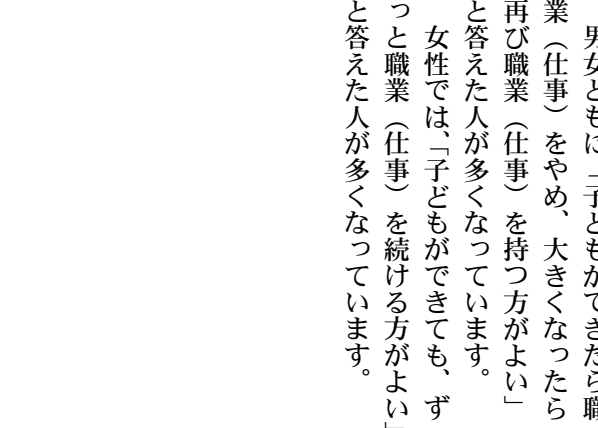
セクシュアル・ハラスメントの経験



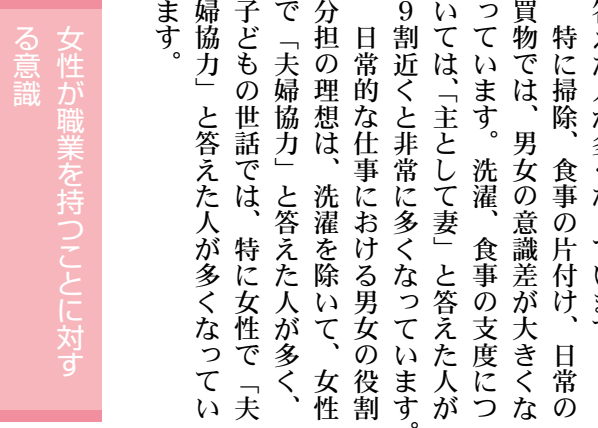
国や県、市の施策に女性の意見がある程度反映されている」と答え



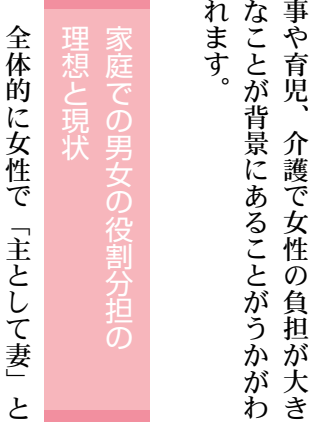
「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」べきと答えた人が多く、次いで「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」べきと答えた人が多くなっています。女性では「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」べきと答えた人が35%と男性に比べて多く、家



「自分の職場で経験した人はいない」と答えた人が61%となっている一方、「同じ職場の女性で経験した人がある」と答えた人、「自分が直接経験したことがある」という人がそれぞれ18%となっています。



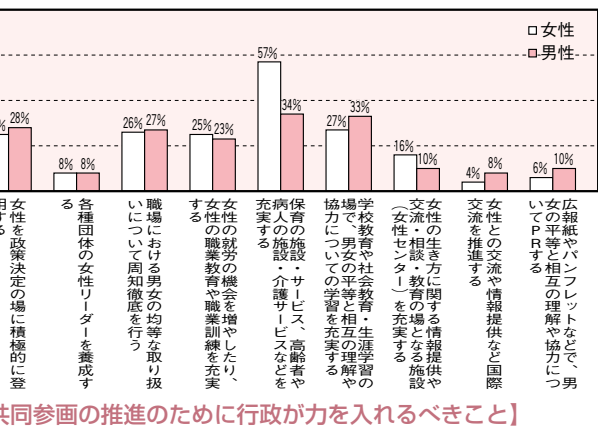
「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」が46%と、女性より多くなっており、男女で子どもの育て方に対する考え方に差がみられます。



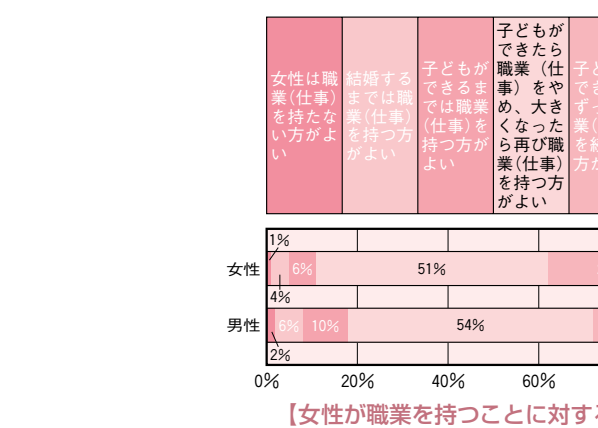
「自分の職場で経験した人はいない」と答えた人が61%となっている一方、「同じ職場の女性で経験した人がある」と答えた人、「自分が直接経験したことがある」という人がそれぞれ18%となっています。



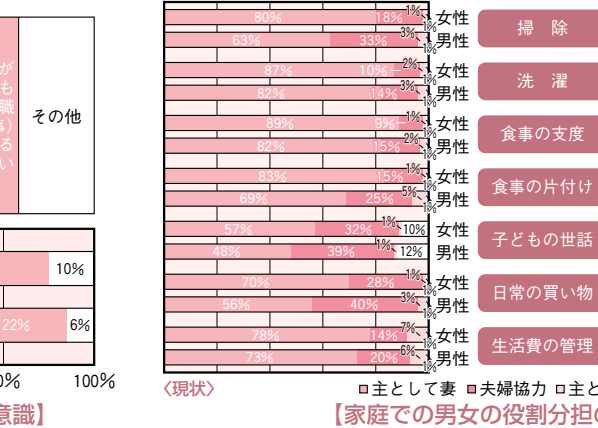
「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」べきと答えた人が35%と男性に比べて多く、家



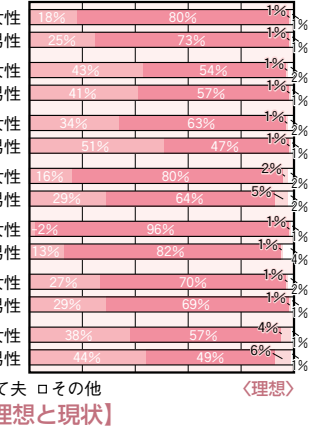
「自分の職場で経験した人はいない」と答えた人が61%となっている一方、「同じ職場の女性で経験した人がある」と答えた人、「自分が直接経験したことがある」という人がそれぞれ18%となっています。



「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」が46%と、女性より多くなっており、男女で子どもの育て方に対する考え方に差がみられます。



「自分の職場で経験した人はいない」と答えた人が61%となっている一方、「同じ職場の女性で経験した人がある」と答えた人、「自分が直接経験したことがある」という人がそれぞれ18%となっています。



「自分の職場で経験した人はいない」と答えた人が61%となっている一方、「同じ職場の女性で経験した人がある」と答えた人、「自分が直接経験したことがある」という人がそれぞれ18%となっています。